

科目名	人材マネジメント論特講	担当者	カトウ 加藤 コウジ 孝治	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>企業は、ヒト、モノ、カネ、情報などの資源の束によって成立する。なかでも、ヒトが二人いれば組織が生まれる、といわれるように人材は組織にとって最も基本的な要素である。組織運営上、どのように人材をとらえ、組織の中で生かしていくか、また、組織の目的と整合性を見出していくかという点は重要な経営課題である。組織構成メンバーであるヒトをどのようにとらえ、育成するかを組織行動論の中から学び、より強い組織を作り上げるために、現実の組織運営にどのように活かすことができるかを理解することが講義の目的である。</p>		
到達目標	<p>現在の日本経済の中では、年齢、性別、人種など、様々な労働者が企業に参加し、ダイバーシティ（多様性）を踏まえた働き方を考えることが必要になっている。ダイバーシティを超えてよりよい働き方を考えることが企業競争力の源泉である。その解決策を見出していけるように、その手法を学び、深く理解するようにしてほしい。</p>		
学修方法	<p>アメリカのMBAでも広く使用されているロビンスの「組織行動のマネジメント」で提示されているフレームワークを理解する。前期には人材マネジメントと経営組織論の関係を理解するために基本テキストもあわせて使用する。後期は、ロビンスの理論を踏まえて、現実の企業社会・経営組織においてどのように人材マネジメント、組織運営を行うべきかを深く考えてほしい。</p> <p>なお、学修の助けとして、テキスト・参考文献は示す。課題を考えるにあたり、その範囲にこだわらず、独自に資料を探索し、研究を深めていくことが重要である。教材以外に書籍、雑誌／インターネット記事の探索、論文、総合研究所のレポートなどから幅広く情報を探し、議論の幅出しを行い、独創性のある自分の考えを提示することが望まれる。</p>		
スケジュール	<p>① 提出期限までに何度かレポートを使って、考え方を確認・交換する必要があるため、最低でも前後期とも課題提出期限1か月前までには初回提出をすること。</p> <p>② 受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、早めの時期(提出期限1か月前)に課題提出することが難しいと考えた場合には、レポート作成に必要な質問をメールあるいは添削システムを使って連絡すること。効率的に学習に取り組むために、レポート作成前に、課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	①教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか ②自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか ③教材以外の資料を活用して解答しているか（加点項目）
	平常評価	20%	①最終提出までに複数回のレポート交換ができているか ②途中稿提出期限（最終提出1か月前）が守れているか（減点項目）
履修者への要望	<p>グローバル経営（MBA）部門のコア5科目の一つであり、他の科目（現代ファイナンス論特講、グローバル経営戦略論特講、アカウンティング論特講、マーケティング論特講）と組み合わせて履修することが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 佐藤剛            教材名： 『グロービスMBA組織と人材マネジメント』（ダイヤモンド社，2007年）            ISBN:978-4-47-800321-3 2,800円+税</p> <p>著者名： スティーブン・P・ロビンス            教材名： 『〔新版〕組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社，2009年）            ISBN:978-4-47-800459-3 2,800円+税</p> <p>前期教材の1冊目（グロービス）は経営組織と人材マネジメントの関係を理解してもらうために選んだ入門書である。全体を通読し、人材マネジメントに係る論点がどこにあるかを把握してほしい。2冊目の教材（ロビンス）は組織行動論を考えるための良書であり、前期は組織の中で個人がどのような関係にあるのかを考えてほしい。</p>
参考図書	<p>金井壽宏，高橋潔            『組織行動の考え方』（東洋経済新報社，2004年）            ISBN:978-4-49-252146-5 2,400円+税</p> <p>スマントラ・ゴシヤール，クリストファー・A・パートレット            『(新装版)個を活かす企業 自己変革を続ける組織の条件』（ダイヤモンド社，2007年）            ISBN:978-4-478-00194-3 2,592円+税</p>
履修上のポイント	<p>経営組織の中で人材がどのようにマネジメントされているのか、現代の組織運営上の問題点はどこにあるのか、自分が経験した具体的な事例に置き換えながら学んでほしい</p>
レポート課題 1	<p>教材1（グロービス）を使い、従業員にとって納得性を与えるために、人事システムにおいて考えられている仕組みについて、その項目を挙げ、内容を説明しなさい。  <b>留意点</b>：人事システムを、制度・仕組みを知識として理解するだけでなく、その背景、目的まで踏まえて説明すること。</p>
レポート課題 2	<p>個人が組織の中で活かされるために必要な動機づけに関する理論をあげ、その内容を説明するとともに、具体的なプログラムとして応用されている事例を説明しなさい。  <b>留意点</b>：教材2（ロビンス）の第Ⅱ部で示されている内容を踏まえ、組織の中で個人が活かされていくために組織は何ができるのか、考えてほしい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： スティーブン・P・ロビンス            教材名： 新版『組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社，2009年）            ISBN:978-4-47-800459-3 2,800円+税</p> <p>組織を運営していくために一人一人の行動と、部門の行動をどのようにコントロールするべきか考える。</p>
参考図書	<p>ピーター・M・センゲ            『最強組織の法則 新時代のチームワークとは何か』（徳間書店，1995年）            ISBN:978-4-19-860309-0 1,900円+税</p> <p>E・H・シャイン            『企業文化 生き残りの指針』（白桃書房，2004年）            ISBN:978-4-561-23393-0 2,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>組織運営においてルールは大事であるが、明文化されている仕組みだけでなく、目に見えない文化にこそ本質が宿っている場合があることも理解する。</p>
レポート課題 1	<p>組織の中で、パワー、政治がどのように利用され権力を掌握することにつながるのか、組織内でコンフリクトが発生した時にどのように対処することができるのか、説明しなさい。  <b>留意点</b>：ロビンスの第Ⅲ部に示されている内容からまとめる。その際に、自分がこれまで組織の中で経験したことのある事例も活用して説明することが望ましい。</p>
レポート課題 2	<p>組織はヒトの集団であり、構成メンバーの意識が同じ方向に向かうほど強い組織となる。組織文化が企業競争力の強化に効果を上げていることについて説明しなさい。  <b>留意点</b>：企業は組織を従業員にとって働きやすく、かつ自己実現を達成できる場となるように様々な工夫をしている。本課題に関しては、教材（ロビンス）の第Ⅳ部からまとめるだけでなく、可能な限り、具体的な企業の状況を把握し、複数の企業を比較しながら説明するようにしてほしい。</p>